

【冬の地貌季語の解説】

東日本「雨返し」

青森県の津軽地方で古くから使われてきた地貌のことば。冬の寒さが緩み、雨になることがある。その後、俄かに天候が崩れ、吹雪に変わることという。日本海を低気圧が通過するときに雨を降らせ、その後冬型の気圧配置が荒れ模様をまねくのである。秋田の方言では「あまげし」とか。

木々は身を振る外なき雨返し

新谷ひろし

西日本「ぼてぼて茶」

出雲地方に伝わる庶民の茶。富山のぼたぼた茶、沖縄のぶくぶく茶が同様の茶として知られている。乾燥させた茶の花に番茶をいれ、土瓶で煮立てる。少し冷ましたものを底が深い呉州手茶碗に注ぎ、大きめの茶笥の先に塩をつけ、ふっくらと泡立てる。そのときの音から「ぼてぼて茶」と名付けられたとか。中へ具を入れて茶を掻きまぜながら具ごと飲む。具には煮豆、みじん切りの大根や漬菜、昆布、柴蘇など。

残り日や男ばかりのぼてぼて茶

土橋石楠花